

2022年6月9日

学校法人三幸学園
沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 萩原 知子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 真下 雄貴

学校関係者評価委員会実施報告

2021年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 真下 雄貴 (株式会社ビルネット 営業本部)
- ② 柏木 千明 (株式会社ルネサンス ライカム 24 フィットネスチーフ)
- ③ 岡田 真希 (飛鳥未来きずな高等学校 沖縄キャンパス主幹教諭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022年6月9日 (会場 沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 応接室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2021年度 学校法人 三幸学園 沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小川 大輔

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 真下 雄貴

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教務目標：スポーツ業界・各学科・コースの業界、授業に魅力を感じ、生徒が学びがいを持って学校に通っている

授業アンケート：授業に対する先生の熱意を感じる 3.78 以上(4 点満点)

授業方法は生徒の興味をひくように工夫されていた 3.66 以上(4 点満点)

私語を注意するなど、適切な授業環境を保った 3.71 以上(4 点満点)

進級・卒業率：94%以上

キャリア・就職：進路決定率 100%

卒業生アンケート：熱意や愛情を感じる先生はいましたか・・・たくさんいた 60%以上

本校への進学相談を受けた場合、本校を進めますか・・・進める 50%以上

① 前年度重点施策振り返り

授業アンケートの結果は、授業に対する先生の熱意を感じる 3.84、授業方法は生徒の興味をひくように工夫されていた 3.75、私語を注意するなど、適切な授業環境を保った 3.79 と全項目目標を上回ることができた。コロナ禍の中であったが、オンラインなども活用し、様々な工夫を行いながら授業を展開できたため、今後さらに魅力的な授業を行えるよう取り組んでいく。卒業生アンケートの結果は熱意や愛情を感じる先生はいましたか・・・たくさんいた 73.8%、本校への進学相談を受けた場合、本校を進めますか・・・進める 38.1%と熱意は伝わっていたが、2項目目が目標に届かなかった為、この結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。進路・就職決定率に関しては100%と非常に素晴らしい結果を出せたので、今後も継続できるように努めていきたい。進級・卒業率は 89.0%と目標に届かない結果となったが、退学者に関しては、将来に向けて本人、家族、教職員での話し合いなどをしっかりと行った上での退学となった。他の業界への進路変更もあったため、授業や学校生活の中で、よりスポーツ業界の魅力を伝えていけるように 2022 年度は取り組んでいく。

② 学校関係者評価委員会コメント

- 授業アンケートで高評価を得ることが出来たことは、如何に工夫された魅力的な授業を生徒に伝え続けた、学校側の姿勢が伝わった結果かと思えます。また、「本校を進めますか」の問いに対し、「進める」が 38.1%という結果を真摯に受け止め、分析し改善を図る必要がある。(真下委員：スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・ 理念・人材育成像を明確に掲げ、提示・説明しているが、様々な場面で繰り返し伝えつつしていく必要がある。（以前課題としていた見える化は進んでいる）
- ・ 栄養面の指導も行える人材が社会、業界から求められている傾向があるので、本校も強化していく必要がある。
- ・ コロナの影響などにより、オンラインや動画での集客や、指導を行えることがより求められるようになっているので、それに対応できる人材育成を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 繰り返し教員から、様々な場面で理念・人材育成像を伝え続けていく。
- ・ 栄養関係の資格取得をより強化して促していく。また、栄養トレーナーコースの開設準備を進めていく。（2023年度より栄養トレーナーコース開設予定）
- ・ 総合演習や学校行事などを通じて、オンライン、動画編集のスキルを学べる機会を強化していく。（スポーツデザインコンペティションという行事で動画提出での競技を取り入れるなどしている）

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 学校の理念・人材育成像は引き続き伝え続けて（見える化も）ほしい。2023年栄養トレーナーコースを開設に向けて準備の程、よろしく願いしたい。また栄養以外にも業界から求められる分野出てくるかもしれない。引き続き情報収集を行ってほしい。（真下委員：スポーツトレーナー科について）
- ・ スポーツジムを利用する理由として、痩せたいという願いがあることや健康診断で改善を求められたことが多く挙げられる。そういったことからお客様の健康を考慮することができるトレーナーは業界としても求められている。その中で、現在は栄養面に特化したトレーナーはいない。非常に魅力的である。またオンラインという面では、現在はパーソナルや対面の需要が高い。付帯としてオンラインという考え方ではあるが、今後必要となってくる可能性はあるので、カリキュラムに取り入れてもよいと考える。（柏木委員：スポーツトレーナー科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- 2021 年度コロナの影響もあり規模縮小になってしまった行事や、授業のやり方を変更したもの(対面とオンラインでのハイブリット型授業を導入した)などもあったが、概ね事業計画通りの運営を行えた。今後もできる限り計画通りの運営が行えるように、学内外での感染対策、体調管理などの指導を徹底していく必要がある。
- 働き方改革が進む社会において、多岐に渡る校務分掌がある中、コロナの影響で対応しなければならないことも増えているので、情報共有・収集の強化、システム化などをより進め、効率的かつ効果的な業務遂行、学校運営を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- 社会情勢を踏まえた事業計画を立てると共に、学内外での感染対策などの生徒指導を徹底し、可能な限り計画的な運営、かつ安定した運営を行っていく。
- 全国に姉妹校があるスケールメリットを活かした、情報収集などによる効率化、OJT・OFF-JT による育成システムの構築による教職員のレベル UP を図る。

③ 特記事項

- 2021 年度途中より、タブレットを活用し、出席管理を開始。ネット環境の問題など時々起きてしまうが、軌道に乗せることができている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- コロナ禍の影響もあり学校運営はとても大変だったかと思う。引き続き感染対策等徹底した学校運営、生徒指導の程、よろしく願いたい。(真下委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)
- 自社ではマニュアルがあり全国の店舗で共有し効率化を図っている。教育分野では難しいこともあるかと思うが、ぜひ導入を検討していただきたい。(柏木委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・ コロナの影響もある中、充実した実践的な職業教育の場を提供できているが、生徒数が増加しているため、更に関連分野や関連企業・団体との連携の強化を行い、今後増やしていく必要がある。
- ・ 教員の指導力向上のための研修の場が、あまり設けられていないため増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 業界との繋がりを強化、実習先の充実に繋がられるように、積極的に情報収集や企業訪問を実施する。(コロナ禍で難しい場合はオンラインなども積極的に活用していく)
- ・ 教員研修を積極的に実施していく。また授業見学 WEEK を設定し、お互いに学びあい、指導力を向上させていける環境を作っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ コロナの影響もある中で、充実した実践的な職業教育の場を提供できた事はよかった。引き続き関連分野や関連企業・団体との関係を強化してほしい。また、教員の指導力向上の教育もお願いしたい。(真下委員：スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

- ・ 1期生の進路決定率、就職率は100%であったが、生徒数が増えていることを踏まえて就職先(求人)を更に充実させていくこと。(特に沖縄県内での就職先の確保)
- ・ 資格取得率を向上させていくこと。
- ・ 退学率を低減させていくこと。
- ・ 卒業後の卒業生との関係性の構築していくこと。(卒業生用公式LINEや、学園独自のシステムなど関係性を構築できる環境は整えられている)

② 今後の改善方策

- ・ 就職先の更なる充実 ⇒ 企業や施設への訪問、情報収集を強化することで求人を獲得していく。全国の姉妹校と連携し、企業との連携を強化して、就職に繋げていく。
- ・ 主要資格での高い取得率実現、その他資格取得率の向上。⇒ 姉妹校との連携強化、教科会の定期開催、授業・資格対策の質向上。
- ・ 退学率低減 ⇒ 授業・学校生活での業界魅力伝達の強化、保護者との連携強化。募集活動とのギャップを埋められるように、学びがどのように現場に繋がっているかなどを伝える初期教育を強化。(座学を含めて前向きに学べるように)
- ・ 卒業後の関係性の構築 ⇒ 構築している仕組みを軌道に乗せていく。

③ 特記事項

全国展開している姉妹校との連携により、資格取得に向けた傾向と対策を実施。また退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し、低減に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 進路決定率、就職率100%を今後も継続してほしい。生徒数が増えているとのことで、就職先の充実を図る活動も引き続きお願いしたい。(真下委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ 進路・就職支援体制に関しては、生徒数、沖縄県内への就職希望者増加に伴い、沖縄県内での求人の獲得強化が課題。
- ・ 学校独自の特待生制度や、学費サポート制度、スクールカウンセラーの設置など体制を整えているが、制度だけでなく担任を中心として、学生がより相談しやすい学校、生徒の変化に教員から気付き声をかけられる学校にしていきたい。また、課外活動への支援体制を強化していく必要があると感じており、卒業後の支援体制も軌道に乗せていきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 企業訪問、連携などを強化し、沖縄県内からの求人確保に努める。
- ・ 入学・進級直後での面談に加えて、教員が各クラスに顔を出し、生徒の変化などを確認する、声をかける機会を増やす。また、教員間での情報共有をより加速させていく。⇒生徒の変化などをよりタイムリーに把握し、必要に応じて保護者の方にも協力頂き対応していく。
- ・ 支援体制の仕組化を進めていく。
- ・ 同窓会 Sanko-Link や、卒業生用公式 LINE を活用し、卒業後の支援体制を軌道に乗せていく。

③ 特記事項

- ・ 全国の姉妹校との連携を活かして、オンラインでの進路・就職支援制度の整備は進んでいる。
- ・ 高校と連携し、部活動や、キャリアに対するサポート、取り組みを積極的に実施できている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 学生が安心して学校生活を送ることができるよう、あらゆる面からサポートできる体制や制度の検討を引き続きお願いしたい。また保護者との連携は専門学校と言え重要と考えている。保護者としては子どもの成長を伝えてほしく、保護者が安心して子どもも安心して学校に通うことができるようになる。保護者を巻き込んで学生を支援してほしい。(真下委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・ コロナの状況、社会情勢、生徒数の増加なども踏まえながら、実習、インターンシップ先の更なる確保を進めていく必要がある。また、卒業後でも希望者は学校の研修に参加できるような体制を構築していきたい。
- ・ Wi-Fi の調子が悪い日や、場所があるので改善していく必要がある。
- ・ 国内研修、海外研修の実施を検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 教員(非常勤講師含む)、姉妹校の繋がりなども活用しながら、学内外での実習を充実させていく。
- ・ 積極的に情報収集や、企業訪問を行い、実習施設やインターンシップ先の充実を図っていく。
- ・ 卒業後でも学校の研修に参加できる体制を整えていく。
- ・ システム推進室と連携し Wi-Fi などの環境をより良くしていく。
- ・ コロナの状況を踏まえながら、国内研修、海外研修の実施を検討していく。(今後沖縄校を活用し、全国のリゾート&スポーツ専門学校の学生対象の国内研修を実施予定)

③ 特記事項

- ・ 沖縄校全教室に PC プロジェクターが設置されており、Wi-Fi 環境も整っている。
- ・ 自由視点映像映やマルチアングル映像を実現可能な SwipeVideo を導入している。
- ・ FC 琉球様、琉球ゴールデンキングス様、琉球コラソン様、琉球アスティーダなどのプロチームや、高校の部活動と連携し実習活動を行っている。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 教育環境はとても充実していると思います。今後も生徒数の増加が見込まれる為、実習先、インターンシップ先の更なる確保をお願いします。(真下委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ 定員充足率を 100%とする。
- ・ 奨学金や高等教育無償化に関して、高校でしっかりと説明を受けていないケースが多くあるので、オープンキャンパスなどを活用して、本校からも説明や告知を行っていく必要がある。（2021 年度は大きな問題や混乱なく対応することができていた）
- ・ 入学してみたら、座学が思ったよりも難しかったなどの話が上がることもあるため、募集活動とのギャップを埋められるようにしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ SNS にて学校の魅力を発信する、進路ガイダンスに積極的に参加する、早期対策などを含めた広報活動の更なる対策強化を行う。
- ・ オープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく。
- ・ 学びがどのように現場に繋がっているかなどを伝える初期教育を強化し、座学含めて生徒が前向きに学べるように対策していく。（2022 年度より機能解剖学などを楽しく、わかりやすく学べるポケ模型というアプリを導入）

③ 特記事項

- ・ 一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、沖縄広報室からの支援も受けて募集活動に取り組んでいる。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 学生受け入れ募集活動時、十分な説明、告知を引き続きお願いしたい。（真下委員：スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について）
- ・ ゲーム感覚のアプリはとてもよい取り組みである。実践と知識がリンクできるように活用してほしい。（柏木委員：スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

- ・ 現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・ 自己評価で浮き彫りになった課題を解決していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 各項目、自己評価で浮き彫りになった課題に対して、しっかりと改善策を実施していく。

③ 特記事項

- ・ 職業実践専門課程の申請に向けて準備を進めていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 引き続き法令遵守、適正な学校運営の程、よろしく願いたい。（真下委員：スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	1

① 課題

- ・ コロナの影響もある中、積極的に社会貢献活動・地域貢献活動を実施できているので(ビーチクリーンなどSDGS に繋がる活動、最新技術・機器を活用した部活動応援プロジェクト、チームや部活、選手への施設の貸し出しや、サポートなど)、継続・強化していくこと。

② 今後の改善方策

- ・ コロナの状況を踏まえながら、社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動を継続・強化していく。

③ 特記事項

- ・ 琉球ゴールデンキングス様や、琉球コラソン様、陸上日本代表選手、高校の部活動など様々な団体、選手などに対して施設の貸し出しや、サポートを実施している。
- ・ 今後沖縄校も活用し、全国のリゾート&スポーツ専門学校の学生対象の国内研修を実施予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ コロナ禍の中でも積極的に社会貢献活動、地域貢献活動を実施できたことは非常によかった。これからもこのような活動を続け、地域の方々からも愛される学校を目指してほしい。(真下委員:スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科について)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

開校初年度の 2020 年度に引き続き 2021 年度もコロナの影響を大きく受ける形となったが、創意工夫を行いながら学校運営や、様々な土台作りを行うことができ、全員進路決定した状態で、1 期生を送り出すことができた。また社会貢献活動・地域貢献活動も積極的に実施することができており、生徒に対しても充実した実習環境を提供できている。

今後は、生徒数増加などに伴い、更なる実習先の確保や、地域・企業との関係性の構築の強化を行っていく。また、教員研修や、情報収集を積極的に行うことなどにより、社会のニーズに合わせた授業展開、更なる授業の質向上に努め、沖縄県、日本の健康問題解決、スポーツ業界の発展に貢献できるよう、さらなる沖縄校の発展を目指す。